

1

2

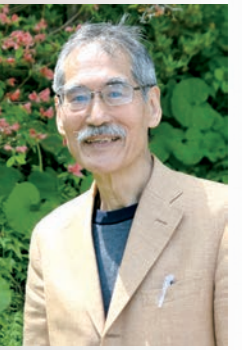
1\_今年5月、市内にオープンした「遠野醸造TAPROOM」。ビールプロジェクトの袴田さん、田村さんと法人を設立 2\_店舗では遠野産ホップをつかったビールなど、オリジナルクラフトビールを醸造して提供 3\_遠野に引越す前は東京の醸造所で3ヶ月研修をしたほか、全国各地のブルワリーを巡りながら袴田さんと共に研修を受けた

遠野文化研究センターだより とおのじん -其の7-

# 遠野人

★筆者 木瀬 公二

遠野文化研究センター研究員、朝日新聞・社友記者。1948年東京生まれ。73年朝日新聞入社。元朝日新聞盛岡総局長。08年に遠野部に移住。著書に遠野物語関連の『119のはなし』など。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報を、6月号からお届けしています。今月は、学芸調査補助員の仕事についてです。

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介  
遠野で起業に挑戦中！  
Vol.9

「遠野ならではのビールや飲みものを  
つくりたい」  
ビールプロジェクト 太田睦さん



首都圏で電機メーカーの研究開発部門でプラズマテレビなどを開発する仕事に就いていましたが、56歳で早期退職しました。退職後はセカンドキャリアのヒントになるので、国内外を訪れました。これまで何度も訪問している東ティモールでは、ボラ

ンティアで現地の学校にコンピュータールームを作ったり、図書室の管理システムを作ったりしました。開発援助の活動に関わったり、人から話を聞いていくうちに、次に自分が何かを始めるにしても、外から物を言うだけでなく自分自身がプレイヤーにならなければいけないと考えるようになりました。

平成28年から市と(株)ネクストコモンズが手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の地域資源を生かした起業・事業化や自立に向けた活動の様子、イベント情報などをお伝えします。

遠野に来てからどんな活動をしてきましたか？

ビールプロジェクトのメンバーに決まってからは、東京をはじめ全国各地でビールの醸造を学ぶ研修を受けました。遠野に住み始めてからは、プロジェクトメンバーと「遠野醸造TAPROOM」のオープンに向けて物件探し、改装工事、必要な設備の手配などをおこない今年5月に仲町で開業することができました。今は、ビールの醸造や店舗の経営・運営に関わる活動をしています。

今後の目標や取り組みたいことを教えてください。

初めはとにかく店舗で提供できる品質のビールをつくることに精一杯でした。夏を過ぎて、それができるようなって来たかなという実感があります。店舗の運営もまだまだ改善していかねばいけません。今後は遠野ならではのビールや飲み物をつくる醸造所になっていければいいなと思っています。

があると、周囲に生えている葉っぱをこすりつけます。すると文字が浮かび上がります。魚拓を取る要領です。葉っぱは雨で落ちるので石を傷つけません。それでも難しい時は周りを暗くしてライトの角度を変えて照らし、何とか浮かき上がらせます。

それにしても、市内のいたるところに石碑があります。なぜこんなに多いのか。災害や区画整理などで石碑を動かすとき、他市町村では捨てるか埋められることが多いようですが、遠野は律義に別の場所に動かし一カ所にまとめ、祭っているのです。どれだけ暮らしと信心が根付いているのか。そう思うと、なんだか神様に見守られている気になる、と3人は言います。



愛宕神社(綾織町)入口前の石碑群

調査はこれまでに土淵町、綾織町、宮守町鱒沢が終わりました。この3地区で石碑を911基確認しました。市内11地区のうちの約4分の1でこれだけあるのです。やはりすごい数です。当センターのホームページで紹介していますので「あそこが抜けている」というのがありましたら教えてください。

全容解明にはあと数年かかります。その時、先人たちが石碑に刻み込んだ思いが読み解けるはず。楽しみですね。

★講座のお知らせ  
国有林遠野開庁130年記念講演会・遠野文化研究センター講座

「遠野における森林の変遷」  
遠野における近現代の森林利用の歴史を『遠野物語』の記述を交えて紹介します。  
■日時 12月18日(火)18時半～20時  
■場所 遠野市立図書館視聴覚ホール  
■講師 平成30年度佐々木喜善賞受賞者、林野庁森林技術総合研修所教務指導官 沖 義裕氏  
■申込 開催日の前日までに電話にて受付

遠野文化研究センターには、これまで紹介したように学芸員が5人います。遠野の文化を伝え、残し、今に生かそうと奮闘していますが5人だけでは手が回りません。そこを、文化課の学芸調査補助員が補ってくれています。久慈市出身の佐藤静香さんと宮城県出身の小笠原史絵子さん、盛岡市出身の佐藤夏穂さんの3人です。彼女らは今、石碑調査に取り組んでいます。柳田國男が『遠野物語』序文で「路傍に石塔の多きこと諸国その比を知らず」と書いたあれです。

一体いくつ、市内にあると思いますか。実は分からないのです。聞かれれば「たくさん」としか答えられないのです。それでは、それらを建て、残してきた先人に申し訳なさすぎます。それで5年前から、補助員の力を借りて実数を調べ始めたのです。

昔の資料があればそれを頼りに現物を探して歩き、資料が無ければ地元の人に聞きます。人里離れた山の中にポツンと立っている石碑も少なくありません。そこにも草木を分け入って行きます。虫や蛇やカモシカはいつものこと。昨年春先にはクマに出会いました。以来、クマ鈴とクマよけスプレーを持つての調査です。



石碑を調査する学芸調査補助員の3人

古い資料を元に現地に行ってみると、様相が全く異なっている場合も少なくありません。あつたはずの場所に無いことも多々あります。そうすると「どうしても探したい」「この辺にあるはずだ」とファイトが湧くと。宝探しの気分がさうです。反対に資料に無い石碑を見つけることもあります。そのときは何とも言えない充実感を味わえると言います。

石碑を見つけると、大きさを計り、彫られている字を読み取っていきます。字が磨滅して判読不明のもの

## レポート 11月の活動のトピックをお伝えします

▼友好都市東京都武蔵野市で行われた青空市で郷土芸能を披露

11月11日(日)、遠野市と友好都市である東京都武蔵野市で『第37回 むさしの青空市』が開催されました。遠野市からは、附馬牛町の張山しし踊りが出演。張山しし踊り保存会に所属する及川隊員、橋本隊員が舞を披露しました。演目を踊り終わると、会場を訪れた大勢の武蔵野市民から、温かい拍手をいただきました。




12月に企画しているイベントです  
お気軽にお問い合わせください

vol.10

### 遠野クラフトビールナイト

～缶詰めおつまみの世界～



- 日時:12月12日(水)18時半～21時半
- 場所:遠野醸造TAPROOM(中央通り)
- 内容:20～30種類の高級缶つま&6種類のクラフトビールのペアリングを楽しめます!
- 参加費:2,500～3,000円
- 定員:15人
- 問い合わせ 袴田 大輔  
TEL:0198-66-3990  
メール:hakamada@tonobrewing.com